



うちのイチ押し!

識字・日本語教室

私たちが住む地域には、さまざまな理由で文字の読み書きに不自由している方や、日本語の会話などで日常生活に不便を感じている方たちがいます。「識字・日本語教室」では、そのような方々と「よみ・かき・ことば」の学習を通じた交流を行っています。

識字・日本語教室の学習内容

- ・文字の読み書きや日本語の会話などを学びます。
- ・毎日の暮らしに必要なことや日本の社会や習慣を学びます。
- ・生活の中で困ったこと、わからないことを気軽に聞くことができます。
- ・読み書きや日本語を学習するだけでなく、さまざまな人と交流します。

学習者の声

- ・まだまだ日本語を勉強したいです。
- ・日本の日常生活を知りたい。
- ・お客さんと話すようになった。
- ・識字教室に来て、友達ができました。
- ・仕事の会話を勉強したい。
- ・よみかきができるようになった。
- ・あたらしいことばがふえました。

学習支援ボランティアの募集

現在、各教室では学習者との対話を通じて、日本語や文字の読み書きなど、学習をお手伝いするボランティアを募集しています。

資格、指導経験、語学力は問いません。「教えるのではなく、ともに学ぶ」「文化・習慣・宗教などさまざまな違いを理解して相手を尊重する」ことを大切にいただける方を募集しています。皆さんの参加をお待ちしています。

教室は基本的に

- 週1回 ●約2時間 ●無報酬(交通費など自己負担)
- 学習者1人~数人に対して、ボランティア1人で学習(グループ、参加者全員で学習することもあります)

教室の開催について

小学校や生涯学習センターなど、身近なところで開催しています。教室の開催場所、曜日・時間は、インターネットをみてください。



- 大阪市HP で検索
- 大阪市生涯学習センターHP で検索
- 識字・日本語センターHP を押下

※学習者も随時募集しています。

お問合せ

教室・学習支援、ボランティア活動についてのお問合せは、大阪市教育委員会事務局生涯学習担当

電話 06-6539-3346 まで

X(元ツイッター)でも発信しています。

大阪市 生涯学習 公式アカウント

@osakacitymanabi

URL: <https://twitter.com/osakacitymanabi>



おおさか

歴史探訪

182

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

天王寺村鑄銭所跡

たくさんの人やお店で賑わう黒門市場の東側に、かつて江戸時代のお金、寛永通宝を鑄造した銭座がありました。地名をとって、天王寺村銭座(鑄銭所)、高津新地銭座とも呼ばれていました。

江戸時代の通貨は金貨・銀貨・銭貨(銅貨・鉄貨等)の3種類があります。江戸時代の前半、幕府は金貨・銀貨を鑄造・発行する金座・銀座を厳しく統制していたのに対し、銭貨を鑄造・発行する銭座は必要に応じて民間に公募し、鑄造額と期間を定めて有力商人等に請け負わせる方式をとっていました。

この天王寺村銭座は、元文5(1740)年に幕府の許可を得た、銀座年寄(銀座の幹部)で商人の徳倉長右衛門等により建設されました。操業期間は翌寛保元(1741)年から延享2(1745)年で、年間20万貫(約2億枚)の一文銭を鑄造したそうです。ここで鑄造された寛永通宝は、裏面に元文の「元」の字があり、元字銭また鑄造地から高津銭とも呼ばれていました。

支配人の不正などがありわずか5年で終業しますが、約3万6千㎡の広大な敷地に、鍛冶小屋などの各種作業場や職人小屋が建ち並んでいたとの記録があります。

経済の基盤ともいえる貨幣の鑄造が幕府許可のもととはいえ、民間の商人等によって行われ、大々的に流通していたのは大変興味深いことと思いませんか。なお、結局各地の銭座でも同様に不正が相次ぎ、江戸時代後半には、銭貨鑄造も幕府支配下の金座・銀座で行われるようになりました。

天王寺村銭座の跡を顕彰する石碑は、現在黒門公園の入り口に建てられています。



天王寺村鑄銭所跡の碑(中央区日本橋2)

(大阪市教育委員会事務局 文化財保護課)